

富山県総合計画審議会 第2回総合部会

1 日時 平成29年5月11日(木) 13:00～15:00

2 場所 県民会館8階 バンケットホール

3 出席委員(五十音順)

遠藤部会長、稲垣副部会長、高木活力部会長、金岡未来部会長、岩城安心部会長
石塚委員、碓井委員、尾谷委員、久和委員、永原委員
今村専門委員、菅野専門委員

4 議事

- (1) 新総合計画の構成案及び骨子案(総論編)について
- (2) 県づくりの視点及び重点戦略のテーマ案について
- (3) 各部会(活力、未来、安心)の主な意見について
- (4) 新総合計画の政策骨子案(人づくり)について

5 発言要旨

(1) 知事挨拶 石井知事

- ・ 本日、富山県総合計画審議会の2回目の総合部会を開催しましたところ、遠藤部会長をはじめ、皆さま、お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。昨年12月に第1回目の総合計画審議会を開催しまして、新たな計画の諮問をさせていただきました。「活力」「未来」「安心」の三つの部会と全体の取りまとめを行っていただきます「総合部会」を開催して、それぞれご熱心に討議を頂きました。また、今回は新たに「総合部会」のもとに「青年委員会」を設けまして、こちらの方も今まで2度にわたって議論していただいて、貴重なご提言を頂いています。
- ・ 本日はこれまでの審議会や各部会での検討結果を踏まえまして、計画についての骨子案を提示させていただいております。また、前回の総合部会でも論点として「重点戦略」、また、重要政策「人づくり」などについて議論をしていただきたいと思います。また、皆さまから頂いたご意見はもちろんですが、第4次産業革命への対応ですとか、働き方改革とか、大きな時代の変化もごございます。そうしたものを踏まえながら、おおむね10年先を目指して、しっかりした明確なビジョンを得るようにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。
- ・ 私は、東京で地方大学の振興と若者雇用の確保に関する有識者会議がございまして、今日は途中で上京しますが、ひとつよろしくお願ひします。

(2) 資料説明

<事務局より資料1～4> 省略

(3) 新総合計画の構成案及び骨子案（総論編）について
県づくりの視点及び重点戦略のテーマ案について

【遠藤部会長】

- ・ ここで委員からのご意見を頂きたいと思います。特に県づくりの視点と重点戦略のテーマということで、新たに従来のものとは若干手を加えられて、焦点を絞り直しまして、この二つが連動しながら示されたと思います。この点を踏まえてご意見を委員から頂きたいと思います。

【稲垣副部会長】

- ・ 県づくりの視点については、今のメガトレンドをしっかりと把握されているとっております。そういう中で、先週のフランスの大統領選挙の件ではないのですが、今まで 20 年ぐらいの一本調子のグローバリズムの流れが若干変わりつつあるなというところはしっかりと捉えておくべきところなのかと思います。ただ、それが例えばイギリスの対応だとか、あるいはアメリカ大統領の対応のように、本当に偏狭で排他的なナショナリズムに走っていいのかどうかというのはまた別だと思えます。
- ・ そういう中で富山県としてあるべき姿というのは、しっかりとローカル、あるいはコミュニティというものを大切にしながら、単なる一本調子のグローバルではないあり方というのですか。それでもって、外に対してもオープンな形といいますか、オープンな県のあり方みたいなものは一つ考えておく必要があるのかなと思っております。
- ・ もう一つ、これともちょっと関連しているのは、10 年間の話だということなので、ローカルとは何ぞやということも考えなければいけないかなと思っております。というのは、明らかに北陸新幹線が福井まで開業するという時代になります。そういうときにローカルエリアというものを富山県という限定的な範囲で考えていいのか。もちろん富山県の計画ですから、それは主体に考えなければいけないのだけでも、例えば新幹線でいうと 1 時間以内に福井までが結ばれるという新しい時代の流れの中で、北陸エリアというところの中における富山県というものも一つあり得るのかなと思っております。

【久和委員】

- ・ 県づくりの視点のところでは取り上げておられる「新たな価値創出」、「グローバル新時代」、「ふるさと」、「人づくり」というのは非常に大事な視点だと思います。特に地方でも新たな価値がちゃんと生まれるのだということが非常に大事ではないかなと思います。
- ・ 先週シリコンバレーに行ってきたのですが、本当に新しい価値を生み出そうとする力、意欲が非常に強くて、その辺は見習うべきだなと思っておりました。いろいろ新しい企業を生み出す仕組みとかはよく分かりませんが、制度や意識も違いますのでそのまま真似するというわけにはいきませんが、そういう地方からでも新しい価値を生み出せることができ、そういうことが若い人を引き付ける魅力になるのではないかなと思いますので、ぜひこの視点は大事にさせていただければなと思います。

- ・ 重要政策「人づくり」のところで雇用の確保という文言が何カ所かあったように思います。産業界からの実態でいいますと、雇用は十分あるのだけれども人が足りないということで、今後少子化がますます進んでいく中で、その傾向は一時的なものではなくて、将来にわたってずっと続くことではないかなと感じております。そういう意味で、いろいろたくさんの政策をやっていくについても、人をどう確保するのか。あるいは人手不足の中で政策をどう実行していくのかというところが今後の大きなネックになるのではないかなと思います。先ほどの人口の話でも社会増をプラスにしようという話もありましたけれども、そういう意味で東京圏から人を引っ張ってこれるような、雇用を作るにしてもそういう付加価値の高い意欲的な仕事を作らないと、従来のような工場誘致というようなものでは人は来ないのではないかなと思います。
- ・ 人づくりも非常に大事なのですが、学校の実態というか、先生の忙しさにももっと実態に即した光を当てて、どうすればいいのかというのを考えていかないと、なかなか優秀な先生が集まらないという話を聞いたりします。ぜひ先生になりたいという意欲の高い人にどんどん入ってきていただけるような環境を作っていくということも必要ではないかなと思います。

【石塚委員】

- ・ 骨子案はよくできていると思います。この中で先ほどの説明にありましたように、少子高齢化で結婚しない方も増えているということです。昨日 NHK の「クローズアップ現代」を見ていましたら、墓のトラブルで、横須賀市の例として、墓は買ってあったが、周りがそのことを知らないので、無縁仏に置かれたというような話がありましたし、墓を買った会社がつぶれたとか、ちょっとかわいそうな方もいました。

私は何も今即という必要は全然ないと思いますが、今後結婚しない方も増え、少子高齢化のことを考えると、もしかしたら、もっと先には富山県も活力があるだけでなく、安心して死ぬるといふか、安心して働いて、「ゆりかごから墓場まで」、富山県にいれば素晴らしいというようなメッセージが富山県からあったらという考えを持っております。

【碓井委員】

- ・ 今回の新総合計画の骨子案の中に県民と県が将来像を共有する計画という記載がありますが、どんなビジョンを描くにしても、一番重要なのはこの共有という部分かなと思います。先ほど将来像についてのご説明もございましたが、長文化で見ると、具体的なイメージとして県民にどう伝わるのかな、今後この将来像をしっかりと共有できるようなイラストなのか、どういう形なのか分かりませんが、その伝え方、共有の仕方という部分に注力といふか、工夫をしていただければと思います。

【遠藤部会長】

- ・ それぞれ意見を頂きましてありがとうございます。大きな流れとして、県づくりの視点が今まで3項目だったのを4項目に変えるということと、それから、「とやま未来創生戦略」、あるいは「富山県経済・文化長期ビジョン」等に合わせた意見を入れながら新計

画というのができていっているわけですけど、この基本的な流れに関して皆さまはご異論はなしということです。

- また、稲垣委員の言われましたローカルの範囲をどう考えるか、久和委員が言われました教育や人手不足・雇用問題をどのように考えるか、また、石塚委員が言われた一生の人の生きざまについて、このような内容をどうまとめていくのか、幾つかのご指摘が出たと思います。
- ご意見をもっともっとお聞きしていきたいのですが、知事のお時間のこともございますので、知事、よろしくお願いします。

【石井知事】

- 4人の委員の方からそれぞれ貴重なお話を頂きました。稲垣委員がおっしゃったようにローカルの範囲をどう考えるか。富山県ということはもちろん大事なのですが、例えば北陸エリアの中の富山という視点も大切というお話がありました。そのとおりです。特に将来ビジョンとして新幹線が大阪までつながりまして東海道新幹線とループ化すると、さらに世界的にも注目されてしかるべき、大きな魅力のある「大ゴールデン回廊」が日本列島の中心部にできますので、首都圏、中部圏、関西圏とこの北陸、こういう視点を持っていないと、単なる東京の郊外になってしょうがないのです。そういうときに富山県としてこうだというのはもちろん非常に重要なのですが、同時にそれは北陸というエリアをいかに首都圏や中部圏や関西圏とある意味では肩を並べるような経済や文化やそういう価値をどう打ち出していくか、その中で富山県はまた独自の価値を持てる、新しい価値を作れる、そういう県になりたいと考えています。
- 久和委員の新しい価値を作り出すというのもそういう面でありまして、特にこれから人手不足がずっと続くと思いますから、そういうことがあると同時に、AIとかそういうことが進むと、ホワイトカラーやブルーカラーのかなりの部分が代替される時代が来ると言われているわけですから、第4次産業革命にしっかり対応しながら、雇用といっても雇用の質がどんどん変わっていく。また、AIとかIoTが進んでも、人間でなければできないようなクリエイティブな産業とか、雇用の場をいかに作り出していくか、こういう視点をしっかりやっていきたいと思います。また、そういう人材を養成するには、小学校、中学校、高校からの教育のあり方が大事なのです、そうすると、教える側の先生も、大変立派な方が多いのだけれども、日々研鑽を積めるような関係にしていかなければいけない。
- 安心して死ぬるという話がありましたが、かねて生きがい的大事ということに対しても、福祉の現場で死にがい大事だという人もいらっしゃいます。いずれにしても「ゆりかごから墓場まで」とおっしゃいましたが、かつて、イギリスが福祉国家を始めたときはまた別の視点からも、そういうことが大事かと思っています。
- 確井委員が言われたビジョンの共有というのは非常に重要で、地域委員会も作っておりますし、それから、青年委員会も作って若い方のご意見も反映させようとしているのですが、これまでもタウンミーティングを随分やってきましたが、もう少し伝え方を工夫して、イラストとか、いろいろお話がありました。なるべくビジョンが共有できるように、また、双方向で議論して、みんなでここを目指すというゴールが示せるようなプ

ロセスも大事だと思いますので、また心がけてまいります。

- ・ 今日これで失礼しますので、よろしく申し上げます。

【遠藤部会長】

- ・ 知事からコメントを頂きましたけれど、委員、あるいは専門委員の方々の中でももう少し全体的な視点につきましてご意見がありましたら頂きたいと思います。

【碓井委員】

- ・ 新計画の重点戦略の中で北陸新幹線の大阪までの延伸のお話でしたが、これは将来に向けて大きな期待を持つところであります。ただ、先日も新聞等でも出ておりましたが、北陸新幹線開業から2年を迎えた中で、日帰りのビジネス客の影響で、宿泊者数が減っているなど開業したことによる悪影響も今後いろいろな部分で懸念がされることもあると思います。ただ開業で終わるのではなく、その後の効果というところを持続的に継続的に期待する取り組みも必要かなと思いますので、この視点に異議はございませんが、そういった部分を含めていく必要があるかなという意見です。

(4) 各部会(活力、未来、安心)の主な意見について

【遠藤部会長】

- ・ それでは、これまでに部会で検討していただいていることがございます。この件につきまして各部会長よりいろいろご教示をしていただきたいと思います。高木活力部会長からお願いしたいと思います。

【高木活力部会長】

- ・ 活力部会の概要は資料 5-1 の方に記載しております。これはちょっと後の方に簡単に説明いたします。
- ・ 私のほうから3点ほどあります。まず良かった点が、重点戦略のなかに「富山の魅力、存在感をアピールするグローバル展開の推進」というのが入っております。今までの計画にはこれがなかったということです。いくらいいものを書いて、知っている人はごく一部だということではなくて、これをどうやって伝えていくかということを書き込んだのはすごく良かったと思います。
- ・ 2点目はちょっと心配な点なのですが、知事は県の財政をきちっと改革しておられて、いい方向なのですが、これをやるのに必要なお金が一切書いていない。財政的裏づけのない施策というのはただペーパーなので、「その資金はどうするの」ということについても何かあればよかったかなと思います。
- ・ それから、最後の3点目ですけど、富山市のコンパクトシティもそうなのですが、役割分担です。例えば防災ヘリとか、ドクターヘリとか、ああいう連携というところをどこかに書いていかないと、何でも自前で1県で全部できるほど税収があるわけでもない、国の財政も厳しいので、ああいう連携をもっと強化していくというようなことがどこかに書いてあったらいいなと思いました。

- ・ 活力部会の報告ですが、4月25日に出席者10名、専門委員13名、23名が出席されて話し合いをいたしました。
- ・ その中で出た意見を三つばかり言いますと、医薬品生産額が全国1位となりましたけど、そこの中の例えば容器などは品質などの面から県外から仕入れざるを得ないというのもあるので、産学官金で連携し、そうした周辺産業も含めて支援するというのが必要だろうと思います。
- ・ それから、不二越さんとか、YKKさんは大変な機械やロボットを社内で持っておられます。そういうところと連携し、大学とも連携し、もうちょっとピラミッドの裾野を広げられないか。
- ・ 最後ですけど、農業の工業化というのをもっとやっていかなければいけないのではないかと。一昨年オランダへ行って、チューリップづくりの機械化を見てきましたが、大学とも連携して日本の値段の10分の1ぐらいなのですね、品質は日本の方がいいと思いますが、一個一個球根づくりではなくて、ばさっと花を切って網で上げるだけですから、魚の定置網みたいです。それで、仮に2割が傷んでも十分商品性があるということで、農業の機械化、工業化というところがもうちょっと何か書けないかなと思います。

【遠藤部会長】

- ・ 幾つか厳しいご指摘があったと思います。全体を俯瞰してのご意見が多かったですけど資金のことや、役割分担のことは重要だと思います。
- ・ 続けて、金岡未来部会長をお願いします。

【金岡未来部会長】

- ・ 4月26日、県民会館8階におきまして第2回の未来部会を開催いたしました。出席された方は審議会委員が10名、専門委員7名、計17名です。富山県の方からは石井知事、教育長をはじめ、多くの方にご臨席いただいています。なお、この未来部会の構成ですけれども、全体で22名の委員の方がいらっしゃいますが、そのうち12名の方が女性の委員です。当日第2回も、17名のうち11名の方が女性の委員の方ということで、女性が活躍する未来を先取りした部会の形になっているかと思います。
- ・ 当日に出た主な意見をご紹介します。資料1に「未来とやま」という第3節に四つテーマが書いてあります。この四つのテーマごとにご意見を頂きました。まず結婚・出産・子育てに関しましては、子どもを持つ幸せ、家族と生活する充実感など、こういうことの啓発・啓蒙に努めていただきたいという意見です。あるいはアメリカあたりですと、保育園内に複数台のカメラがあるなど、安心して子育てができる環境が整っている。こういう施策についても触れていただきたい。さらには仕事と子育ての両立でいいますと、経営者ならびに上司の意識改革が必要で、これが非常に重要ではないかと。また、親の近くに子どもが住む、あるいは3世代同居を進めるような施策が、非常に重要ではないかというご意見がございました。
- ・ また、2番目の真の人間力を育む学校教育の振興につきましては、スマホ等の記載もありますが、その害ばかりを伝えるのではなくて、新しいITのデバイスについての有益なこともたくさんあると、学校教育の中でもこれを積極活用するというようなことを考

えていただけたらどうか。先ほど久和委員からもお話がありました学校の先生が非常に忙しいということで、それに対する対策、例えば部活動の担当を外部委託するようなことも考えてみられてはどうかというご意見もございました。さらには家庭・地域の教育力の向上という観点では、今ほどご意見がありましたが、家庭・企業・地域間の連携は具体的に何なのかということで、もっとそこを分かりやすく、連携とは何をすることなのかということを示すことも重要だろうということです。

- 3番目の文化・スポーツの振興につきましては、やはりスポーツに限らず、文化・芸術分野においてもレベルを引き上げるには良き指導者が必要であると。この指導者育成、あるいはその招へいについての記載が漏れているのではないかとご意見がございました。また、スポーツ振興については企業が非常に大きな力を持っておりますので、企業の役割についても記載をお願いしたい。また、ひきこもりの方が高齢化しますと大変大きな問題になると、ひきこもりについても触れていただきたいというお話もございました。
- 最後のふるさとの魅力に関しましては、新幹線周辺はいいとしても、県全体をきれいに見せて、観光の方、そしてまた、若者が町で楽しめるような、町に出たくなるような景観、町、地域づくりを目指していただきたい。
- 全体を通して、10年のスパンといたしますけれども、例えば教育という視点で考えますと、10年というのはすぐに来てしまうということで、各施策にもっと優先順位を付けていただきたいというご意見がございました。
- 最後に私の方から申し上げたことは、10年のスパンということでございますと、後でこの計画を見返すことになるわけですが、その際に文言、用字用語に十分注意を払っていただかないと、表現、内容に一部古いものと、これは見返した際に参照されなくなるということで、大変難しいことではあります、用字用語、表現には十分な注意を払っていただきたいというお願いをしました。総じて方向全体に対して反対する意見はございません。むしろ記載内容をより一層吟味していただく、あるいはその充実を求める意見が多かったように思います。
- 先ほどの県づくりの視点について一言だけ私の意見を申し述べさせていただきますと、資料3で新たな県づくりの視点を示していただきましたけれども、前回と違うのは、前回は人材が視点1に来ているわけですね。そうすると、この順番が今回は4番になってしまっているということが、もう既に人材ということについては十分施策を打たれて、その重要性を下げたということなのか。この順番がどうかというのは施策を論ずる上で非常に重要ですので、この順番でどうして人づくりが4番目なのかについては、前回の比較でいいますとご説明が必要なのではないかなと思います。
- あと、もう一つは、グローバル新時代はもちろんそのとおりですけれども、先ほどどなたかがおっしゃいましたが、富山県単体でできることと、それから、グローバルとの関係ということになりますと、これは国対国の関係もありますので、どうしてもそこで何らかの緊張関係がありますと、強く打ち出そうとしても打ち出せない場合もある。従って、富山県単体でどんどん進めていける施策と必ずしもそうではない施策という、二つの視点でもって施策を考えていただく必要があるのではないかなと思っています。

【遠藤部会長】

- ・ 金岡未来部会長から本質的なことで、県づくりの視点の項目の「人づくり」は4番目でいいのか。「人づくり」という視点は、これが今までのように1番のままでいいのではないのかというような見方が示されました。このことについて、事務局側からのご意見はいかがでしょう。

【事務局】

- ・ 整理させていただきます。

【遠藤部会長】

- ・ 分かりました。整理していただきたいと思います。次に、安心部会の方で岩城部会長からご報告をお願いします。

【岩城安心部会長】

- ・ 4月27日に第2回目の部会を開催いたしました。委員は全部で23名で、全員出席ということです。県側からは知事、それから、厚生部長さん等がご出席いただきました。
- ・ 四つの項目についてご意見を頂きました。一つはいのちを守る医療の充実ということです。医療関係におきましては女性医師が非常に増えているということです。特に富山大の医学部におきましても40%近くの学生さんが女性だということです。今後この女性医師にどのように対応していくかということです。女性医師が今後増加していく中で、さらに勤務医の労働環境を改善していかなければ、人材不足ということも考えられますので、ぜひ考慮していただきたいという意見でした。在宅医療の推進におきましては、リハビリ、管理栄養士、薬剤師などの多職種連携やレベルアップが必要ではなかろうかということでした。健康寿命日本一ということに関しましては、生活習慣の改善として取り組みの基本方向に休養というものも入ってくるのではないかという視点が一つございました。それから、もう一つ施策としましては、禁煙というものが入っていなかったもので、禁煙の推進というものをぜひ加えていただきたいということでした。
- ・ それから、住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の推進です。地域の個別事例等を踏まえて、施策・政策の提言まで行える地域ケア会議の充実をぜひ加えていただきたいということと、その中には障害者も対象としてできないかという意見でした。介護・福祉人材の確保につきましては、非常に人材確保が難しいということで、むしろ中学・高校でのキャリア教育に福祉教育というものをぜひ取り入れて、中学・高校からこういう教育をぜひやっていただきたいという意見です。障害者への支援等につきましては、障害者雇用の工賃アップに向けて企業からの下請型から起業型の形への転換が必要ではないか。特に中小企業におきましてはこのような転換方法が必要ではなかろうかという意見でした。
- ・ それから、環日本海地域をリードする環境づくりにつきましては、いわゆる食品ロス、あるいは食品廃棄物対策の取り組みをこの10年を見据えて推進していただきたいということでした。環境の保全ということでは、希少動植物の保護には、減少してきている「水田」というものを見直すべきではないか。特にこの水田に関しましては、動植物の

維持に役割を果たしているのではないかということで、放置されている水田をぜひ活用していかなければならないのではないかという意見です。

- それから、4番目の災害に強く、「日本一安全・安心な県」づくりについてです。防災団体や住民に対しては、災害時の対応方法といった情報提供をぜひ行ってほしいという意見がございました。犯罪の抑止とか地域交通、住環境づくりにつきましては、パトロール隊員の高齢化が非常に進んでいるので、それに対する対応もしていただきたいということです。また、防犯対策としましては防犯カメラが有効的なので、早急に大幅な設置が必要なのではないかとという意見もございました。
- 全体的にいいますと、どこの分野でも人材確保というものが非常に問題となっております。特に福祉関係におきましては、今後高齢化が進んで、いろいろな在宅医療というものが進んでいる中、人材確保というのが今後必要になってくるのではないかという意見でした。

【遠藤部会長】

- 部会でいろいろな意見が出て、積極的な議論があったことについてご報告いただきました。
- ここまで約1時間経過しました。予定といたしまして、この後、人づくり政策の政策目標と取り組みの基本方針及び主な施策ということに関して先にご説明を頂いて、その後、全体の議論をさせていただきたいという段取りにさせていただきます。では、事務局の方からお願いします。

(5) 資料説明

<事務局より資料6>省略

(6) 新総合計画の政策骨子案（人づくり）について

【遠藤部会長】

- これもさまざまな視点とさまざまな課題があることが分かります。資料として今日全体としてはここまででご説明を頂きました。各部会の検討状況についてもご報告を頂きました。
- 総合計画策定のスケジュールとしては、総合部会はあと何回あるのですか。総合部会の役割としてはある一定の方向性をまとめていかなければいけないということなので、この点のご説明をお願いできますか。

【事務局】

- 本日は第2回の総合部会をさせていただいておりますけれども、この後は第3回総合部会を10月に予定しております。その間に、先ほど知事が申しましたように、地域委員会やタウンミーティング等を開催します。10月に答申素案を作成させていただきまして、それぞれ青年委員会、各部会、地域委員会で再度審議していただきまして、総合部会でお諮りした後、総合計画審議会でご答申案の審議につなげていきたいと思っております。

【遠藤部会長】

- ・ 最終的には審議会で決まるという形ということで、総合部会としては、回数は限られます。このことを視点を置きまして、ご意見はしっかりいただき、その後事務局の方でフォローしていただくという形になろうと思います。どうぞ各皆さま方のご意見を続けていただきたいと思います。

【菅野専門委員】

- ・ 空き家の件ですが、先ほど安心部会の最後の方に少し犯罪や防犯の件で空き家対策のことが書いてあります。現在、人口が減少しているということ、都会に人口が流れるということ、そして、最近では相続税対策ということで、空き地に集合住宅を建てると相続税が軽減されるということもありまして、集合住宅が全国的に増えております。恐らく富山県でも8軒に1軒ぐらひは空き家という状況だと思うのですけれども、高岡でももちろん空き家がすごく増えています。空き家の対策というのが見た感じではあまり書かれていないようですので、少しそれに力を入れていただければなと思います。ここに住宅診断士の充実とか、そういったことも書いてありますが、そういう感想を持ちました。

最近、重伝建地区という計画的に保護されている高岡の山町筋の方で、比較的大きな空き家を改修させて、4月の終わりに「山町ヴァレー」という商業施設をオープンさせていただきました。国、県、市からもいろいろな助成金を頂いて、まちづくり会社の末広開発というところでやらせていただいたわけです。2年ぐらひかけてようやく今年の4月にできたのですが、耐震の問題とか、いろいろな法規制等がありました。不特定多数の方が出入される商業施設なものですから、そういう規制があったのですが、そういう商業施設の場合と普通の古民家改修、そういったものをもう少し緩やかにできれば空き家の活用というのがしやすくなるのではないかな、そのあたりも少し考えていただければいいなと思っております。

【尾谷委員】

- ・ 「エイジレス社会の実現と『かがやき現役率』の向上」についてです。内容はこれでもいいのですが、65歳から74歳とあるのですけれども、年を取ったら静かに黙っておってもらいたい状況にある中で、こういうふうに大々的に求めてもいいのかなと思うところがあって、もちろんそれだけ技能、知識を持っておられる方は富山県の社会において活躍していただくということはそれでいいのですけれども、大々的にタイトルを作ってそこまでしなくてはいけないのかなというのが少し疑問に思ったところです。
- ・ 先ほど高木さんからもありましたけれども、連携の強化ということで、これからグローバルのタイトルが付きましてので、例えば港湾の部分でも、これから日露の話し合いの中でもいろいろ変わってくると思うのですけれども、富山、金沢、新潟は多分重要になると思うのです。その後の北陸としては富山、福井、石川ということで、いろいろな見方をしていかなければならないなと思っています。一番心配しているのは、開発や新規企業との関係でいろいろな皆さんは研究開発費に金をかけるのだけれども、本当に富山だ

けでそれをやっけていいのか、例えば石川にその部分の強みがあるから、その開発部分を持っていただくとかいうような、産学で連携した話し合いが少し必要ではないかなと思っています。大きく取れると大変なものですから、少し北経連さんにもご協力いただきながら話をさせていただければありがたいなと思います。

【遠藤部会長】

- ・ 北経連会長の久和さんはこの点についていかがですか。

【久和委員】

- ・ 先ほど稲垣さんから北陸という捉え方というお話がありましたが、確かにこれは全体と別に、富山県という意識が強く出ているというか、これは県が作られているので致し方ない点があるのですが、先ほど知事のお話にもありましたように、東京、名古屋、大阪に伍していくような地域として日本海側で北陸を考えるというのは、私ども北経連としても全く同感で、私どもの大事なプランの中でも、そういう位置づけで考えております。

その辺はどこまで連携ということを表示するのか。県として難しいところがあるかもしれないけれども、役割分担とか連携とか、そういうことは当然やっていかないとけないことだろう。新幹線もできますし、たかだか車で行っても2時間で行ける場所ですので、大いに連携をして北陸としての存在意義をアピールしていく必要があるかなと思います。

【遠藤部会長】

- ・ 少し気になったのですが、「大ゴールデン回廊」というのは一体どこのところにどういうふうなサーキュレーションする図を描いているのでしょうか。中京を全部含めてということでしょうか。少なくとも北陸が太平洋側ではない拠点になるというふうなことだと思います。また、10年後を目指したときに、この「大ゴールデン回廊」というのは一体いつの時点で完成しているイメージなのかも伺いたいと思います。

【今村専門委員】

- ・ 二つの疑問点があるのですが、一つは県づくりの視点のところの一番上に「新たな価値創出」ということが書いてあって、経済力だけではなくて、ソフトパワーとしての文化が重要、これはもっともだと思のですが、ここに文化力とか、文化 GDP という言い方をされていたのですが、一体この文化の振興とか文化 GDP というのはどういったものをお考えになっていて、どうやって文化の振興がそういう発展につながっていくとしているのか。言葉としてはすごくきれいなものだけれども、それがよく分からないというのが1点目です。
- ・ 2点目としては、人口動態のところ去年外国人の転入超過ということがあったということですが、これはどういった形の、例えば労働力としての外国人が多かったのか。何年前に話題になっていたような外国人花嫁とか、そういった形のものなのかどうかというのが、今後外国の方の転入を進めていこうとしているのかどうかというようなこ

とを、その覚悟みたいなことをお伺いできればなと思いました。

今、ヨーロッパなどに見られるように移住反対とか、移民反対という言葉がよく聞かれます。日本とヨーロッパは違うといえばそうなのですが、日本の中でもヘイトクライムとか、そういうようなことがあるということがあります。例えば旅行に来て、日本が気に入った。でも、いざ住んでみると、よそ者排斥みたいなのがあって、かえって日本嫌いになっていったというような話も聞きます。それから、例えばもし本当に外国人の定住とかいうことを考えるのだったら、例えばイスラム教徒向けにハラール食品をもっと普及させるとか、そういうことも考えなければいけない。

今後、日本人だけに限ってはいけないので、人口を増やしていこうとするのだったら外国の方を増やしていかなければいけないというのがあるのではないかと思うのです。大体日本人なんていう概念も近代以前は曖昧模糊とした部分もあるので、そこはあまり堅苦しく考えなくていいのかもしれない。でも、宗教や文化の問題もあるので、どういった形で今後外国の方の転入問題を考えていращやるのかということも県としての考え方をお聞きできればと思います。

【事務局】

- 十分なお答えができるのか分かりませんが、この場でお答えできる話をいたします。文化力等の文化 GDP ですが、これは自民党の勉強会の方で造られた言葉で、これまで保存等が十分に行われていなかった文化財を修復することによって、外国人観光客等に対する魅力を向上させて多くの人に見に来てもらう。そういうふうにする中で、周辺の観光産業、経済等に良い影響を与えて、GDP も引き上げていこうというものです。これを参考として、本県の中でも文化 GDP の引き上げの向上、例えば瑞龍寺は典型例だと思いますが、ああいう形でしっかりとした整備、観光情報の提供などを行うことにより経済に対する好影響を与えるというような取り組みが復活させるということを含めて変えていくものと理解しています。
- 外国人の流入問題につきましては人手不足の観点で論じられるところがあるのですが、それにつきましてはいろいろな価値判断があるのではないかなと思っています。福祉、介護、医療の世界で資格を持っていた方々を呼ぶことによって人手不足を解消しようという動きもございますけれども、それだけではなくて、観光客が流入するということか、観光客を含めた社会的移動に伴って富山に定住していただく方をどうやって増やしていくかという問題があります。

それから、大きなものは、外国人だけではなくて、富山出身の方々に帰ってきてもらうということによって富山県の人口を何とか維持していこうという課題があって、かつ高齢化や、人口減少による人手不足を AI でいかに代替していくかという問題と、トータルを含めて、いかに富山の産業を養っていく人口をキープしていくかということを考えているわけなのですが、その中でもしかすると外国人の方々にも産業の担い手として担っていくことが考えられるのではないかと、そのときにいろいろな課題があると思うので、そこをどう解消していくかというのがこの課題になるという観点で、プラン、県づくりとして位置づけているわけではないかと思っています。少子化の中で社会の担い手をどうするべきかという中で外国人の方はこれから私たちが考えなければいけない課題ではな

いかという思いで書いているものです。今日頂いた疑問点につきましては、もう少し整理させていただいてお答えさせていただきたいと思えます。

【高木活力部会長】

- ・ 県庁は企業ではないのですが、やめるものを書かないと、県庁の職員もかなりスリム化してきている中で、誰がやるのと。
例えば、報告書を減らすとか、無駄の削減をやるとか。先生の事務をパソコン等で共通化して省いてあげることも必要ではないか。
- ・ 参考資料3を1ページめくっていただくと、外国人の転入超過が約1,000人増えていますが、これの実態は何かといいますと工場への実習生です。
- ・ 外国人実習生で増えているわけで、これを除けばマイナスです。だから、こういうところをどう考えるのかということのも大事だなと思えました。

【碓井委員】

- ・ 人づくりの骨子案の中から一つ質問させていただきますが、テーマ3の人づくり、7の政策です。その中に主な施策と具体例の2番「仕事と育児を両立しやすい職場環境の整備」ということで、一つ目に「『イクボス』の趣旨に賛同する企業経営者等によるネットワークを構築する」という記載があります。先ほど未来部会の意見の中で上司の意識改革が必要だというお話もございましたが、現状を考えたときに、県内で「イクボス」という状況、環境が既に整っているのかということ、まだそうではないのかなと思うと、ネットワークを構築する以前の段階がまず必要なのではないかなと思います。ただ、ネットワーク、つながりを構築するというような骨子案ですので、まだどこまで具体的なものがあるか分かりませんが、教えていただければと思います。

【事務局】

- ・ 「イクボス」ですが、「イクボス」宣言をされている企業というのが県内にいて、自治体を含めると52団体あります。北銀さん、北電さん、グループ会社を含めて、去年はかなり多くの方々に「イクボス」宣言していただきました。この「イクボス」宣言は会社の中の働き方を改革しようという思いが宣言になっておりますので、そういう企業が増えることによって、富山にそういう企業がまずあるので、そういうところに入りたいというような若手の方が入っていきます。就業に対する視点が変わってくるのではないかとということもあります。

働き方改革のやり方についての情報交換をするということも含めまして、「イクボス」企業同盟というのを今年から発足させようと準備を進めているところです。そういう企業の先進事例を共有することによって、富山県内企業に勤めている多くが全て働きやすい、過ごしやすい、子育てしやすいということになりますと、県外に出ている若い富山出身の方々、それから県内出身でなくても県内にいらっしゃる方々が、「富山県の企業は働きやすいのだよ」ということを言っていれば富山で働く方が増えるなどという期待感がある、そういう取り組みになるのかなと思っています。ここには抽象的に書いてありますけど、これは進めていきたいと思っていますところでは。

【碓井委員】

- ・ ありがとうございます。分かりました。今お伝えいただいたみたいに、その宣言だけで終わらないような取り組みをぜひお願いしたいと思うのと、また、「イクボス」と両輪で必要なのは父親の方の意識改革が必要だろうと思いますので、経営者だけではなくて、実際に労働している男性側の改革ということも両輪でマターを進めていただければと思います。

【稲垣副部長】

- ・ 職業能力開発協会という立場から少し話をさせていただきますが、人づくりの5のところで職業的自立、起業の支援、あるいは技能の習得ということが書いてあるのですが、職業能力開発協会の立場から言うと、これは単に若者だけの問題ではないのです。技能とか技術とかというものに対する社会的な評価というものをどういうふうに確立していくのか、そして、その対価をどのように確立していくのか、高めていくのか。そうでないとどんどんどんどん技能や技術というものの継承やそれを高めていこうという意欲が下がってきているというのが、私は現実のような気がします。ですから、入口だけ整備しても、きちっとしたゴールをもっともっと高いところに持って行ってもらいたいと思っています。言ってみたら、今は大学を卒業して、企業に入りマネジメントみたいなところばかり評価されている。この点ばかり評価されているわけではないのかもしれませんが、社会的な評価は過大になっていて、本当に一人が腕を持って、技能を持ってやっていくということに対して、もっと社会的な評価、尊敬とか、注目とか、あるいはそれに対する対価もしっかりとしたものにしていくということが社会的なムーブメントとして必要なような気がするのです。ぜひそういう視点で県のあり方というか、そういったことも考えていただきたいなと思っています。

【久和委員】

- ・ 人づくりのテーマの二つ目の若者の成長と自立、起業の支援、社会参画のところなので、イメージですが、他の項目は十分自立していない若者をもっとちゃんと育てるという話が主になっているが、起業をやる人はもともと非常に意欲があってやる気満々の人です。起業は既存のシステムの中になく新しい価値を作り出そうとか、新しい仕組みを作ろうとかいう意欲があって起業をされるのだと思うのです。そうでなかったらどこかやりたい会社へ入ってやればいいのか。そういう意味でここに起業を入れてひとくくりにすると、非常にイメージが結んでこない、どっちかというところと産業政策とか、そういう中で新しい企業を支援するとかいうところに入れた方がいいのではないかなという感じがするので、ご検討いただけませんかでしょうか。

【遠藤部長】

- ・ ここで各部会の会長から追加のコメントがございましたら頂きたいと思います。

【高木活力部会長】

- ・ 先ほど申し上げた県境を越えた連携については資料 2 の 48 ページにちゃんと書いてありましたが、これはもうちょっと頭出しにさせていただければいいのかな。「県民の参画や協働」の項目に、シニアの果たす役割について書いてあるのですが、こういうところはもうちょっと明記しておかないと、先ほどみたいな高齢化社会の中でシルバー民主主義みたいなのはちょっと困るかなという感想ではないかと思うのですね。

【金岡未来部会長】

- ・ 先ほど誰がやるのかというお話も高木委員からありましたが、正直にいいますと、国とか、こういう県単位の計画でいつもそれが問題になると思います。未来部会の中でも誰がやるのだということで、そのときに私も申し上げていたのですが、公助、共助、自助、いろいろな助け方があって、どうしても県とか国の方というのは、ただ像だけを描いて、具体的にやるか、やらないかについてはあまり議論されないことが一般的だったと思います。むしろ、その網羅性にすごくこだわられて、それが恐らく企業経営者の人から見ますと、そんなにたくさん書いて、お金、あるいは人は一体誰がやるのか。そういう意味でいいますと、この計画のあり方というのは日本の国全体がこういう作り方になっていますので、これはいいとは思いますが、やはり思いとすると、その中でも県では、ここに書いてある大きな項目の中でその中の 3 割ぐらいはやりますとか、この項目については民間でお願いしますとか、ただ、目標としますとか。富山県全体で 100 万以上の県民がいる中ではこういう方向を目指していかないといけないでしょうが、富山県とすると、恐らく各基礎自治体でもそこまでの力はないでしょうから、ここは企業にお願いしますとか、そのあたりの思いがこの計画だけを見ますと確かに伝わってこない。どこまで県がやってくれるのか、あるいは富山市はじめ基礎自治体がどこまで期待していいのか、残りはどこまで民がやらなければいけないのか、あるいは個人がやらなければいけないのかという思いです。絵ではないですけど、各バロメーターがあって、「3 割は県がやります。あとは民間、あるいは個人でお願いします」というような大きな方向性がないまま、いつも国や県の計画が作られて、それが真剣に物事を進めようという人から見ますとどうなのだろうなということになってしまう最大の問題ではないかなと思います。

先ほど高木委員もおっしゃったとおり、お金はどうするのか。少なくとも予算ぐらい書いてよという気持ちは確かにあります。国も大上段に振りかぶったいろいろな施策がありますが、よく見ると予算が 3 億 5000 万とか、では、これは一体何をやるのだと。人件費で消えてしまいますよねということになりますので、大変難しいお願いをしているのですが、そのあたりは従来の枠組みを超えた何らか新しいものの考え方を打ち出していただけると大変ありがたいなという気がしております。

【岩城部会長】

- ・ 県の方からいろいろな政策目標が出ております。それに対していろいろな委員の方々から本当に貴重な意見をたくさん出していただいておりますが、これはどれくらいの率で実現できるのかという思いがいつもこういう計画案が出たときにあります。計画はものすごくいいし、誰が見ても非常にいい計画案が出ていると納得するのですが、実際

にこれがどれくらいの率で実現されているのかというのは、後で県の意識調査が書いてありますが、これを見ても、そんなに調査で改善されたというのは今までどれくらいあるのかといつも思っています。

他の委員の方々からの意見も同じように「これは本当に実現できますでしょうか」というのが本音だろうと思っておりますので、いろいろな意見も出していることと、それから、県がいろいろな計画をしていただいたのに関しまして、100%とは言いませんけれども、最重要課題だけでもぜひ実現できるような方向に持って行っていただければという感じしております。

【遠藤部会長】

- いろいろな意見を頂き、厳しいご指摘も頂いていると思います。私の方で一つだけ意見を言わせていただきますが、10年たった後に一体何をやったのだろうかということを想定するとすれば、目標設定が必要なのだろうと思います。

国立大学は活動評価という点ではKPIで数値化し、目標設定をして決めて答えを出せというのを年間目標のところで問われています。高木部会長が言われたような客観評価が求められている時代なのだと思います。そのことはご検討をぜひお願いします。

- それから、地方大学の将来課題と地方の創生を有識者会議という形でやられていて、石井知事が全国の知事会議の代表で入られていますが、今日はその諮問が出ます。教育と地方の創生をどうつなげるかということがまさに議論されていまして、非常に重要な将来設計になると思います。今回の結果は、6月の骨太の試案とかに入ってくる可能性があります。
- 最後に永原会長にまとめていただきたいなと思います。

【永原審議会会長】

- 全国で47の都道府県のそれぞれ、首都圏と愛知県と大阪府あたりを除いて、みんな同じような形だと思います。少子高齢化が進んでおりますし、高校までは県内にいたけれども、東京に行って帰ってこない。女性が少なく結婚もできないし、あきらめる。
- 先ほど遠藤さんもおっしゃったけれども、資料4の五つの重点戦略に、「大ゴールデン回廊の創出を視野に入れた拠点性の向上」とあるが、何分その大ゴールデン回廊ができるのは30年後の話で、10年間の計画とはミスマッチになっているのです。県も計画を作るだけでなく、作った計画はちゃんと実行するというにもう少し力を入れてやれないかなと思う。
- あと、先ほど労働力が足りなくて、海外の人を使うことで入ることもという意見があったが、これに関しても長い年月で物事を考えてほしい。例えば若い人、30代の人に来てもらえれば、とりあえずはいいですよ。例えばその方が30年、40年同じようにいて、一定期間住んだからどこかに行くのならいいが、残った場合にどうすればいいのか。医療費とか、介護とか、年金とか、そういうのを含めてものを考えてほしい。皆さんの方もとりあえずの労働力として考えては駄目なのではないだろうかということです。

だから、それはAIとか、ロボットもそうですよね。短期の話ではなくて、長期的な話を考えてほしい。「富山県人口ビジョン」では、近い将来を踏まえて、人口は80万

は必要と言っているが、昭和の初めには富山県の人口は何万人だったのか、明治16年に富山県ができたときは何万人だったのかということ、はるかに少ない数ですよ。だけど、違うのは、多分戦前は65歳以上の人はごく少なかったと思うのです。70歳が古希というぐらいだからね。

県として考えないといけないのは、前にも言ったけれども、富山市中心部とか高岡市は別にして、県内の市町村が限界集落になるおそれがある。これは大変なことになってしまってから、何とかしてもらおうとしても、多分手遅れですから、かえって早い段階で県の方が協議するとか、計画を立てて考えないといけないと思う。だから、平成の大合併で流行するようになったけれども、南砺市の城端の曳山は城端の町のもので、それは福光のところでは応援できないと思う。だから、平成の大合併が駄目だったのだと言うつもりはないが、合併はしたけれども、城端地区のものは城端に戻すようにやっぺかないといけない。何かしないとまずいのだろうと思います。

【遠藤部会長】

- ・ 永原審議会会長からは10年間の計画とミスマッチとのご発言がございましたが、今日の議論の中で、資料の1の第3編の長期構想ということが入ってしまっていて、10年以降のものに関して、最初は議論の中に入っていたのですが、今回の計画が果たしてそこまで議論できるか、論じるのがいいのかどうかというようなことで、今回の議題からは外させていただいております。
- ・ もう一つ、地域のことをおっしゃいましたけど、富山県の中での地域性についてどう論じるのか、今日は議論できていない部分として残っているということだと思います。

【事務局】

- ・ 実際に目標を作ってやったかどうかという話は先ほど議論がございましたが、補足させていただきます。資料2の42ページにありますように、この計画につきましては、現計画もありますが、マネジメントシステムを作っておりまして、政策目標を達成するために必要な事業と数値目標を挙げています。それを毎年その数字を追いかけて、達成状況というのを評価する評価システムというのを持っております。これについては投入ただけで判断しているのではないかというご指摘を頂いていると思いますけれども、皆さん方にKPIに近い状態のものを多数の項目について持っておりますので、今後もそれに準ずる形で数値による進行管理はしていきたいと思っております。

【遠藤部会長】

- ・ 課題は尽きませんが、今日はこの会を閉じたいと思っておりますが、よろしいですか。ありがとうございました。

(7) 閉会

【山崎副知事】

- ・ 本日は各委員の皆さまから大変貴重な意見を頂戴いたしました。個別の件につきまし

てもいろいろとご意見を頂戴したわけですが、計画のあり方、あるいは位置づけ、例えば誰がやるのか、どうやるのかといったような、本当に大きな観点からの意見を頂戴したわけですが、それが一番難しいところです。そうしたことも含めまして、今日頂戴いたしましたご意見は、石井知事は途中退席いたしましたけれども、しっかり伝えさせていただくとともに、頂いた意見をどう今後の計画の中に反映させていただくか十分検討させていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。